



沼津朝日新聞社
〒410-0888 沼津市末広町34
TEL 962-4840 FAX 962-4590
URL numaasa.com
1ヵ月 730円・1部 40円

「志ラボ」の名で小中学校に探究学習

28年度からの導入へ試行続く上

市教委は2028年度から「志(こころざし)ラボ」の名称で小中学校に「探究の学習」を導入する。文部科学省は「探究学習」について、「問い」を見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する学習活動のことだとし、「これからの時代において重要な役割を果たす」と位置付けている。市内での実施へ向けに現在、小中学校7校がパイロット校としての取り組みを続けることにも、高校まで一貫した学習となるよう、中部部のある市立高で試行が続けられている。

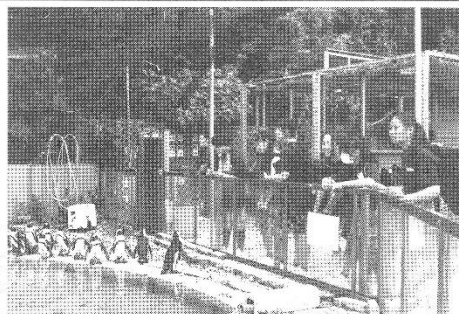
子どもが実社会や実生活と向き合う中で、「なぜだろう」と思うところから「問い」を見つけ、それについて考えて解決し、表現するところまでが一連となった学習を目指す取り組み。

現在、小中学校には「総合的な学習の時間」、高校では「総合的な探究の時間」がある。また沼津市では「言語科」の教育に注力し、総合的な学習の時間の半分を充て、その中には探究につながる学びの要素もある。市教委によれば、探究的な学習には段階を設けているという。

以前は「知識を集める」ことが重要だったが、「自分で研究」のようになる。これらの一連の学びが「志ラボ」であり、例えば「スケールの大きい自由研究」のようになる。

市教委は2028年度から「志(こころざし)ラボ」の名称で小中学校に「探究の学習」を導入する。文部科学省は「探究学習」について、「問い」を見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する学習活動のことだとし、「これからの時代において重要な役割を果たす」と位置付けている。市内での実施へ向けに現在、小中学校7校がパイロット校としての取り組みを続けることにも、高校まで一貫した学習となるよう、中部部のある市立高で試行が続けられている。

上げる探究学習」をテーマに1年かけて取り組んでいる。同校では小中学校を通じて「静岡学習」を積み重ね、地域について学びながら郷土愛や地域に貢献したいという気持ちを



生徒達は自分達の考えたことが実現できるか確認しながらいつもと違った視点で見学した＝淡島マリナパークで

観光客は少なく、中でも若い人の来訪が少ないのはなぜか、に着目。そして、淡島マリナパークを盛り上げるため、自分達にできることはなにかを考えることにした。

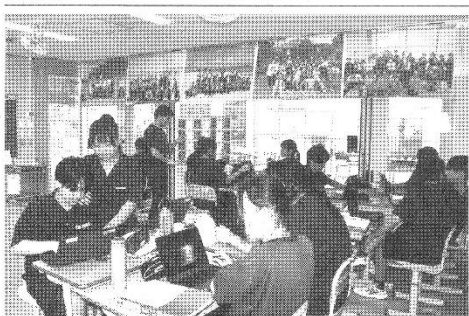
生徒は各自が具体的な案を考え、それに基づいて仮説を立て、同じ思いを持つ生徒がいればグループになって話し合ってきた。

【中学校の取り組み】静岡小中一貫学校(渡邊義昭校長)の9年生23人は、淡島を本気で盛り上げることを目的とし、生徒達は、まず地域の課題を見出した。海沿いには2つの水族館があるのに、

釣った魚をその場で食べられるようにしたいと考える生徒もいた。

「食」を開発したいと考える生徒は「カエル館にいるアメフラシがカエルがかわいいから、それをモチーフにした饅頭を作れたら」とアイデアを膨らませた。

生徒達は、この日の体験を生かし、何が実現可能かを考えて具体化を目指す。7月に入ると、自分達が考えたことをマリナパークの人に伝えるための資料を作り始めた。



自分の考えを伝えるための資料作りは、一人で考える子ども数人で相談しながら行う子もいる＝静岡小中一貫学校で

ここで相手への伝え方について学びたいというこになり、9日には沼津の教師を招き、「効果的なプレゼンテーション」について授業を受けた。

今後、マリナパークのスタッフを招いて、各自が作った資料を基に考えを伝えていく。

山内美海さんは「これまでやってきた授業とは違い、相手が求めているものをから自分で考えている。すごく新鮮な体験で楽しい」と話した。

担任の江藤亮太教諭は「生徒達は自らやろうとする意識を持っていて、言葉の端々から、それが感じられる」と言う。

教師は、生徒の先行きを予想しながら求められるものを用意しているとし、「子ども達だけでなく教師も探究していて、気付きの連続」だと語った。

(市立高は次号で)



沼津朝日新聞社
〒410-0888 沼津市末広町34
TEL 962-4840 FAX 962-4590
URL numasa.com
1ヵ月 730円・1部 40円

『志ラボ』の名で小中学校に探究学習

28年度からの導入へ試行続く

【市立高の取り組み】市立高（伊藤直美校長）は、「まちの学びをつなぐ探究エコシステムin沼津」を整備し、市内の小中学校における探究学習「志（こころさし）ラボ」を支援するとともに、地域とつながる学びの「ハブ（中心）」の役割を担う、としている。

全国の高校では2022年度から「探究的な学習の時間」が導入され、各校で独自の学びを実践している。

市立高では中高一貫校として6年間の学びを見通しながら、地域や行政、企業など連携した探究活動を行っている。

28年度から市内の小中学校で「志ラボ」として探究学習を開始するに伴い、同校では市内の子ども達がつながる先進的な学びのモデル「探究エコシステム」の構築に取り組み。そのために「三菱みらい育成財団」の助成を受けようと応募し、採択され、3年間の助成を受けることになった。

8月には同校の生徒達が中学校に出向いて探究学習の「伴走支援」を行う予定で、9月下旬に計画している市内の小中学生を対象とした探究活動の体験講座では、4人の生徒が主体となって運営し、小中学生に探究の面白さを伝える。

このように、小・中・高の子ども達が連携した探究の取り組みは全国で初だという。

【市立高生の探究活動】中等部を併設する同校では、6年間を見通した探究の学習を「文化」として根付かせることができるよう取り組んでいる。

そのため今年度、9人の教諭達による「探究部」を創設。さらに中高共、各クラスに2人の「探究係」を置いた。

5月に行われた文化祭「鷹峯祭」では一般公開で「探究ラボ」として展示を行い、昨年度の成果などを発表した。

同年度の高校1年生は「地域の課題解決」をテーマとして取り組み、各自が立てた「問い」を基に生徒同士のグループで探究活動に取り組んだ。

「より暮らしやすく、自転車事故の少ない交通環境を作るには」をテーマにしたグループは、市内で自転車の交通事故が多いことに着目。道路交通法の改正によ



同校の「鷹峯祭」では探究に関する展示を行い昨年度の探究学習の成果を発表した＝市立高で

りヘルメットの着用が努力義務化されたものの、実際には着用しない人が多いことから、着用率向上を目指して生徒が出演、撮影、編集した啓発動画を製作した。

この動画は、交通安全意識の向上に貢献するものだと、沼津署長から感謝状を贈られ、沼津駅前ロータリーや商業施設でも放映された。

また、「『まちもぐマップ』で沼津を活性化させよう！」をテーマにしたグループは、「市内の高校には1万人の高校生が通学しているにわかかわらず、まちに、にぎわいがいい」ことが課題だと捉え、沼津を活性化させる方法を考えた。

そこで生徒アンケートを実施したところ、「地元の飲食店を知らない」ということが分かった。紹介することになった。生徒達は学校周辺の店の各店主と交渉して、特典を受けられるようにして、それを載せたマップを作った。自校と他校の生徒に配布した。

これに取り組んだ風野一花さんは「自分達の力でやってみて手ごたえを感じた」と言い、2年生になってからも、これを発展させた探究を行っている。

このほか、「沼津の特産品を生かして人々に魅力を届けるには」の問いを立てたグループでは、沼津茶の需要が減少し

ていることに着目し、これを活用した菓子を開発することを研究。沼北町の菓子店「みやこ庵」と共同で、西浦みかん「寿太郎」を中に入れた「抹茶みかん大福」を開発し、校内や市役所で販売した。

さらに鷹峯祭に向けて、沼津ならではの菓子3種類を同菓子店と共に開発し、計750個を完売した。



「鷹峯祭」では生徒達が地元の菓子店と共同で開発した和菓子を販売した＝市立高で

同校では中等部3年での広島への修学旅行を基に平和学習にも力を入れ、「高校生平和大使」として活動した生徒もいて、この活動報告も探究の一環として行われた。

探究係の高橋柚優さん（1年）は「インターネットで調べたことは知識として入るが、実感がないものとなるので、より自分の目や耳

で体験したことの方が、しっかりと考えられる」と手ごたえを感じている。

大川さくらさん（同）は「ネットの中にあるのは他の人が考えた答え。探究で自分達が出す答えは、一生懸命に調べたり体験したりして出すものだから、その過程が大事だと思う」と話した。

探究部長の永田匠教諭は「『問い』を立てて追究していけば、また新たな『問い』が出てくる。探究のサイクルを自分の中で回していけるようになることが重要で、生徒には、それができる力を身に付けてほしい」と願う。

不確実で将来の予想が困難な時代には、こうした力が欠かせないものとなるのではないだろうか。